

メイトルの つばやき

No.27



ホロコースト記念日

こんにちは！

5月は暖かく、そして晴天の日が続いているので気持ちがいいですね。この季節は、私の国イスラエルでも暖かく空は晴れています。

毎年イスラエルでは、ユダヤ人のホロコースト記念日が行われます。今年は4月8日に行われました。ホロコーストとは、第二次世界大戦中（1939年から1945年まで）ナチスドイツによりヨーロッパのユダヤ人に対して起こされた大虐殺です。ホロコースト中600万人のユダヤ人が殺されました。つまり、岐阜県の人口の三倍です。

ホロコースト記念日は、ホロコーストの犠牲者とホロコーストを生き抜いたユダヤ人の勇気を称える日です。その日は、午前11時に2分間サイレンが流れると国民は足を止め、黙祷を献げます。そして、学校や大学などでは特別な式典が行われています。

今回は、ホロコーストの中生きて、ユダヤ人の女の人の話を紹介したいと思います。彼女の名前は「ハンナ・セネシュ」です。



提供:ハンナ・セネシュ記念館

ハンナは1921年、ハンガリーで生まれました。16歳にハンナの生き方を大きく変えた事件が起こりました。当時、高等女学校に在学中のハンナは、将来、作家になりたいという希望を抱いて文学クラブに入部していました。新学期に入り、文学クラブでは新役員の選出が始まり、候補者の一人だったハンナは、みんなの推薦を受け新役員に選ばれました。

しかし学生自治会は、ハンナがユダヤ人であるという理由からハンナを拒否し、再選挙を要求してきたのです。

当時、ヨーロッパ社会では、ユダヤ人への差別と迫害が厳しくなっていました。学校の出来事はハンナのユダヤ人意識を目覚めさせるものとなりました。その時からハンナはイスラエルのことについていつも考えていました。イスラエルへ移りたくなりました。そして、ハンナは全ユダヤ人のために建国することに参加したくなりました。

イスラエルの女子農業学校に入学願書を送り、ヘブライ語の勉強を始めました。農業のために体力作りもしました。

第二次世界大戦が始まった時、18歳のハンナは一人でイスラエルに向かいました。そして、ハンナは女子農業学校で2年間学び動きました。

徐々に、ヨーロッパの方では戦争が厳しくなりました。そして、ハンナは英陸軍の青年移民組織に加入することを決断しました。1943年1月にイスラエルに住んでいるその組織のメンバーは、ハンガリーに残っているユダヤ人救出の極秘作戦を計画しました。それはユダヤ人を救出するため、パラシュートで降下し、ハンガリーに潜入し、ユダヤ人と接触するという特務でした。ハンナは特務隊に応募しました。応募した人たちの中で、女性はハンナ一人でした。1944年3月にその特務隊のメンバーは、ユーゴスラビアという国の地（ハンガリーの隣国）にパラシュートで降下しました。数日後、ハンガリーがドイツに占領されました。

1944年6月、たった一人でハンナはハンガリーの国境を越える決心をしました。その時、ハンナはハンガリー兵に捕らえられ、投獄され恐ろしい拷問にかけられました。しかし、ハンナは青年移民組織の計画については全く話さなかったのです。1944年11月、23歳のハンナは処刑されました。ハンナは今も尚、イスラエルの英雄です。



提供:ハンナ・セネシュ記念館

さて、5月中旬に、杉原千畝記念館の二階展示室が新しくなりました。それは杉原千畝氏により発行されたビザを持ち、リトアニアを脱出し日本を通過したユダヤ人難民からの大切なメッセージです。

ぜひ、みなさんには杉原千畝記念館の杉原ビザ受領者の特別展示を見て、感じて頂きたいと思います。記念館スタッフ一同、お待ちしております！

メイトルさんへの質問は
meital@town.yaotsu.lg.jp までどうぞ！